全国 検数労連

726号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2 日港福会館 5 階
Tel 03(3733)5621　Fax 03(3733)5622
メール　roren@kensu.jp
ホームページ　http://www.kensu.jp/
全国検数労働組合連合
書記局

3月1日(水)14:00～15:00 第3回検数労連23春闘交渉

23春闘での大幅賃上げ、労働条件改善で『人財』確保を！

【第三回交渉】

3月1日(水)第3回検数労連23春闘交渉で、組合は両協会に22年度収支状況・時間外労働の実態と対策・週休休暇取得の実態と対策を求め交渉を行いました。

【全日検】

22年度の収支状況について、各支部の収支状況等を集約し全支部の予算審議を行っている最中であり、詳しいことは披歴できる段階にないが、概要として22年度はコロナ禍・ロシアのウクライナ侵攻などで取り扱い貨物に大きな影響が出ている。特に自動車や青果が深刻であり、前年同期比でも追いつけていない。また、23年度の見通しについても不透明である。

時間外対策と各種休日休暇の取り組みについて、時間外の労働の実態について、80時間以上の従事者は全国で2名出ている。業務としてはコンテナ船主席とターミナル業務であり、現在は対策を取っている。週休についても土曜日は原則休日扱いとしていることもあり、全国的にも高率で消化できている。

【日検協会】

本日の交渉で、労組より損益見込みと実績見込み等の披歴を求められていたが現在、各支部から集約している最中であり現時点ではハッキリとしたことは言えない。22年度の状況としては、鉄鋼・自動車などの落ち込みがあったが、詳細については説明できる段階にはないことを理解してほしい。

時間外対策について、各支部での対策した効果もあり80時間以上の従事者はゼロ名である。また週休の取得についても代休の消化も含め、高率で取れている。また、年次有給休暇5日以上の取得についても高率で取れており、こちらについては年度末までには100％取得の見込みでいる。

【組合主張】

組合は両協会から収支状況の概要、時間外労働の現状と対策、週休休暇等の現状と対策の説明を受け、次の通り主張を行いました。

①各種休暇の消化について。

各地域組合員の声を聞くと『週休が取り切れていない』との声が多数上がっている。特に日検協会の『休暇の代休』に対する対応が悪く、結果的に代休を消化できずに流れていくとの声が上がっているので、そのあたりの対応が課題となる。

②料金収受について

料金収受の課題で、港湾産別の中で『検数の料金収受ができていない』との話が上がっているが、両協会とも料金収受に向けた動きを強めているのか。

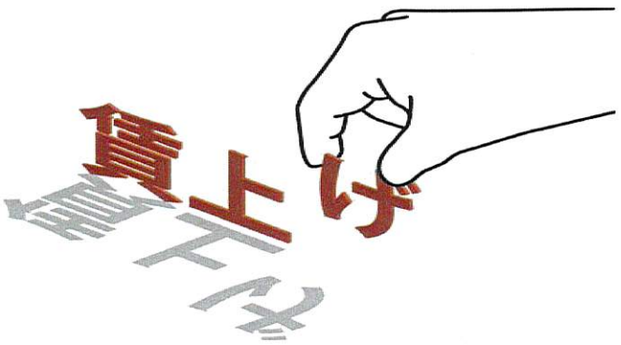
【全日検】

料金収受については、全国で取り組むべきとの方針のもと、各支部とも得意先に料金交渉を行っている最中である。その結果、一部では料金アップに繋がっているものの、原資となるまでには至っていない。

【日検協会】

各種休暇の消化について、休暇の代休の対応については引き続き対策を取っていきたい。

料金収受については、22春闘での仮協定以前から料金収受に向けた交渉は取り組んでいる。22春闘時の経過を受けて、あらためて各顧客店社に料金改定の要請はしているものの、22春闘前から継続して行って、料金改定をしてもらっている顧客あり、再改定など難しい部分もある。



【組合主張】

いずれにしても各課題を克服するためには原資が必要になる。両協会ともに従来通りの対策をしていたら両協会に人材は集まらない。収支状況ばかりに目を向けて23春闘の賃上げ回答を出し渋るようなことがあっては、気が付いたときには人材がいないという事態になりかねない。

現在、検数に限らず港湾に人材が集まらないなかで、検数から港湾の他企業へ離職してしまう事態も起こりかねない。離職者を出さないためにも23春闘での大幅賃上げと労働条件の大幅な改善ということは必至である。

先日、横浜で全国の若手の組合執行部や組合員を対象とした『検数労連全国学習会』を開催した。学習会の中で、参加した若年者から『人材不足』という切実な声が多く出された。やはり人材不足というのは全国共通の課題であると同時に、検数両協会としてこのような若年者の声を重く受け止めて、23春闘では組合要求に沿った回答を構築し、賃金・労働条件の向上によって、離職者に歯止めをかけるような対策や計画に沿った新規採用者の獲得等をおこなってほしい。

次回交渉 3月16日(木)14:30～第4回 検数労連23春闘交渉

両協会に対し、23春闘回答構築に向けた考え方全般に向けて、交渉を行っていきます。